

新しい成田空港を支える高規格道路ネットワーク構築の基本方針(案)
～千葉県版WISENET2050の実現に向けて～

新しい成田空港を支える高規格道路ネットワーク構築のあり方について、「千葉県道路協議会」及び令和6年9月に設立した「首都圏空港道路ネットワーク検討分科会」において、意見交換を行いながら検討を進めてきたところである。

これまでの検討結果を踏まえ、千葉県道路協議会において、下記のとおり基本方針を策定する。

記

- 日本のゲートウェイである成田空港を核とする機能強化は、今後の日本全体の競争力を左右する国家プロジェクトであり、アジア主要空港に比肩するグローバルハブ空港として機能させるため、空港施設やアクセスなど基盤インフラの戦略的構築が急務である。
- しかしながら、現状で成田空港にアクセスする高規格道路は、東関東自動車道のみであり、リダンダンシーを欠いている。また、京葉道路を中心に、千葉県湾岸地域では慢性的な渋滞が面的に生じており、成田空港アクセスとしての機能を果たすことができず、地域の社会経済活動に損失を与え、生産性を著しく損ねている。
- 京葉道路については、交通容量不足などを要因とする渋滞箇所を特定し、渋滞対策に取り組むための料金見直しを活用し、一定の成果をあげているものの依然として渋滞が残存している状況にある。
- また、令和8年度には圏央道(大栄～松尾横芝)の全線開通が見込まれており、成田空港へ南側からアクセスすることが可能となるため、これを活かして、都心との複数のアクセスルートを確立し、賢く使うことが必要である。
- 高規格道路の整備が地域にもたらす大きなインパクトは外環道千葉県区間の開通でも実証され、飛躍的な速達性・定時性の改善とともに、生活道路の交通安全の向上など、現在もその効果を発揮し続けている。
- 高規格道路ネットワークを真に利用しやすいものとするためには、引き続き、「ネットワークの充実・強化」と「公平で利用しやすい料金体系」を実現す

る「ハード」・「ソフト」両面の取組が必要である。

- こうした認識を共有する中、「シームレスネットワークの実現」、「多機能空間への進化」といった WISENET2050 に示される考え方を十分に踏まえ、国・県をはじめとする関係者は、以下の取組に重点を置き、連携して、新時代の基盤にふさわしい質の高いネットワークの実現を目指すこととする。

<成田と都心・羽田の連結強化につながる新たなネットワーク形成>

- 唯一の成田空港アクセスである東関東自動車道に加え、都心と成田空港を最短で結び外環道と接続する北千葉道路、及び渋滞が顕著な京葉道路を補完し外環道・東関東自動車道館山線と接続する新湾岸道路を車の両輪として、地域と意識を共有しながら、スピード感を持ち、有料道路事業を活用し、最優先で新たなネットワーク形成を図る。
- 新湾岸道路の計画の具体化にあたっては、広く関係する方々の意見を把握しながら、丁寧に合意形成を図る。
- 北千葉道路については、外環道から国道16号の間が自動車専用道路として計画されているが、国道16号以東についても、都心と成田空港を信号なく直結する規格の高い道路としてサービス水準を向上するため、計画の見直しを進める。

<圏央道・アクアライン軸(ゲートウェイ・コリドー)の強化>

- 成田空港から圏央道、アクアラインを経て羽田空港に至るルートは、成田と羽田を結ぶ新たな代替軸となり、ゲートウェイの効果を首都圏へと広域に波及させるコリドーとなるため、渋滞状況を監視し、圏央道やアクアラインなどの機能強化に向けた検討を行う。

<高規格道路アクセスの改善>

- シームレスなサービスレベルを確保し、高規格道路ネットワークの効果が沿線地域に波及するよう、千葉港等の拠点アクセスの円滑化や高規格道路の IC 周辺の県道等における渋滞ボトルネックの解消を図る。

<ネットワークを賢く利用する取組>

- 成田空港の機能強化とあわせた道路アクセス強化にあたり、高速道路の

経路間における料金水準の差異等により、相対的に料金水準が低い経路において、交通偏在による渋滞発生が生じることを踏まえ、料金水準の整理・統一を進めることにより、経路にかかわらず円滑なアクセスを確保することが重要である。

- 需要に働きかける TDM など、ネットワークをより有効に活用していくための方策や道路規格に応じた安全で快適な走行に向けて検討を行う。